

以下は [http://www.bhpfc.org.uk/lahamrally/rules\\_issue\\_10.pdf](http://www.bhpfc.org.uk/lahamrally/rules_issue_10.pdf) を訳したものである。

本訳の作成に大きな貢献をしてくれた”かっきー”氏に感謝。

2016/7/2

本訳は BHPFC 非公式の翻訳であり、イカロスカップがどのようなものであるかの参考資料として作成した。本訳にてなんらかの不利益を被った場合、作成者及び公開団体がその責を負わない。

## Rules for BHPFC Competitions

### 1. イントロダクション

BHPFC の狙いは人力飛行機を技術的そしてスポーツとして促進させ、いつかはオリンピックの競技となればと願っている。以下に記すルールと規定は 2012 年と 2013 年の Royal Aeronautical Society Icarus Cup event と 2014 年の集会で得られた経験をもとにして作られたものである。

BHPFC は BHDA の系列下にあり競技に参加するパイロットは BHPFC のメンバーである必要があり、故に保険に加入していなければならない。(詳しくは注釈1へ) 飛ばないチームメンバーはこの保険に必ずしも加入する必要はない。二輪車から転んだり、機体につまづいたりする危険性が最も低いのは地上にいる人や進行係の人であることは経験上明らかであるので、全ての競技において少なくとも一人は応急処置担当者が居合わせるようにして、さらに全チーム一人は基礎的な応急処置の資格を持っていることを強く推奨する。

競技に参加する際の入場料は各機体ごとに請求され、飛行場までのアクセスにかかる料金も8人までなら含まれる。他にいくらかの別料金を負うこともある。

競技ルールの改定などについての詳細は BHPFC のホームページ <http://www.bhpfc.org.uk> へどうぞ。

### 2. 競技内容

- 1) 持続期間
- 2) 200m タイムトライアル
- 3) 1km タイムトライアル
- 4) 500m回転滑降コース
- 5) 三角コース周囲との距離
- 6) 援護のない離陸
- 7) 着水の正確性
- 8) 草地での離陸
- 9) 200m タイムトライアルにおける草地での離陸

### 3.適応性

この競技は人力の、パイロットによる単独な飛行ができる期待と対象として開かれている。以下に記述されていることは禁止事項である。

- 1) エネルギーの蓄積(ただし航空電子工学的な強化や操作性の強化を除く)
- 2) Air devices より機体が軽いこと。
- 3) 牽引や、ロープによる巻き上げや、風により補助
- 4) パイロット以外の人により機体の制御

以下は許可されている

- 1) 自動安定(装置)
- 2) パイロットによってつけたり消したりすることができる自動操縦装置
- 3) 上記の援護のない離陸の興行のときのアシスタントは1人に限るが、それ以外の場合の離陸アシスタントは3人までとする。ただし、機体を推進させるのではなく、期待を安定させる行為に限る。

### 4.競技成績

この競技はパイロットに課せられた勤めに応じて得点制度を設けている。種目全体を通して優勝チームとパイロットの個人優勝を決定する。

得点制度の詳細は 5.6 に明記してある。

- 1) 優勝者は教示中最も多くの特典を集めたパイロットとする。
- 2) 各チームの機体はパイロットとしての新規加入者はチームメンバーの上限である。8人までなら何人でも許可されている。ただし、パイロットは1つのチームにしか所属してはならない。
- 3) 優勝チームは得点の合計点が最も高いチームとする。合計得点は各競技の持続時間に基づいて達成された最も高い得点の総和によって計算される。
- 4) 機体の形状に何らかの重要な変更点があるならば、事前に組織者に知らせる必要があり、組織者は別の機体になるという認識を持ち合わせてないとならない。

またデザインや設計における優勝もあり、組織者の裁量によって総体的に優れているかどうかをジャッジする。

## 5.ルールと規制

各チームは、5.1 と 5.2 で説明される安全規制に従っていることを保証する責任を持つリーダーを設ける必要がある。

### 5.1 機体

- 1) 機体はどの競技の前でも飛行試験されていなければならない。
- 2) コックピットの中では突起物があってはならない。

### 5.2 パイロット

- 1) すべてのパイロットは必ずヘルメットを装置しなければならない。—自転車用のヘルメットで十分
- 2) すべてのパイロットは第三者保険に介入しなければならない。(参照:注釈 1)
- 3) パイロットは自信の感覚が正常であると確認したうえで、機体が飛行に向けて適切であることに納得しなければならない。
- 4) パイロットは意図的・日常 15m(50ft)よりも高く飛行してはならない。
- 5) 競技に参加するパイロットは何かしら飛行に関する経験を持ち合わせてなければならない。
- 6) パイロットは競技参加のエントリーフォームを埋めてルールと規制に従うことに同意しなければならない。

### 5.3 チーム

- 1) チームの最大人数は 8 人。適切な保険に入っている人なら 8 人の中でだれがパイロットを務めてもよい。
- 2) チームリーダーは競技ルールが守られていて、安全上の問題が生じた場合は、問題が解決するまでは離陸はしないように保証しなければならない。
- 3) チームリーダーは少なくとも一人は応急処置担当者が対応できるように担当者を確保することを強く推奨する。
- 4) チームリーダーはチームがすべての規制に従っていることを保証する責任を持たなければならない。
- 5) チームは競技の司会者の指示に従わなければならない。
- 6) チームリーダーは危険の査定も含めて指揮すること。(参照:注釈 2)
- 7) チームリーダーはチームから少なくとも一人を進行係(司会者)として任命する。この人は(3)と同一人物でいい。

## 5.4 種目(task)

- 1) 悪天候などの問題で組織(主催者)側の判断で飛行は中止になることがある。
- 2) ジャッジの得点の採点は最後に行われる。
- 3) 補助人がジャッジの手助けをする。

## 5.5 勤め(もしかして作業?主催者?場を求める人)

各種目を設けるのは[Rally Director]の裁量で決まるが、天候や気体の状態やパイロットの経験の有無に基づいている。

- 1) 機体が種目の後も使えそうでない限り、得点は与えられない。疑わしいと思うのであれば、離陸を1時間以内に実際にやってみる必要がある。
- 2) 各競技者は割り当てられた10分で開始するか、離陸列の最後尾に行く。
- 3) 3人まで離陸を補助する要因を要してもよいが、「接後のない」バージョンの離陸の場合は機体の安定を図る目的として1だけで許可される。
- 4) [Rally Director]の裁量によって複数の種目が飛行中に課せられることもあるだろう。(例)持続時間と(機体の)回転と(機体の)速さ。
- 5) 競技全体を通してチームが取り組んだ種目の最高得点がチームの得点となる。

## 5.6 点数と得点

- 1) 持続時間(滞空時間)  
滞空時間は機体全体が離陸してからの時間で測られる。  
一秒につき5ポイント、最大で1500ポイント(5分)
- 2) 200m タイムトライアル  
200mの距離がある、スタートとゴールに0.75mの高さのマーカーがあり、その上を通過することでタイムトライアルを測っている。スタートの場所はパイロットにお任せである得点は、マーカー上での経過時間とそれによって測定された速度の3乗に基づいて計算される。
- 3) 1km タイムトライアル  
得点は $(v)^{3.25}$ として計算される。
- 4) 回転競技(slalom)  
slalomは全長500mのコースであり、スタートとゴールに0.75mの高さのマーカーがある。体の胴体が、コースが終わるまでに滑走路の中心線通過した回数で、得点が決まる。もし、

機体が 500m 手前で着陸してしまっても得点は持続される。中心線を通過することに 200 ポイント。

5) 三角コース周囲との距離

距離を競う種目は全長 1.5km の三角形をしたコースで通過したパイロットの数に基づいて規定される。機体は継続的に飛行している状態でなくてはならず、胴体の中心線が各パイロンの外側を通過しなければならない。スコアリングラインを通過する度に 500 ポイント。周回制限はない。

[http://www.bhpf.org.uk/lahamrally/rules\\_issue\\_10.pdf](http://www.bhpf.org.uk/lahamrally/rules_issue_10.pdf)

の 5 ページ目 Diagram 1 – Triangular course for distance task を参照

6) 援護なしでの離陸

この種目はパイロットだけの力、つまりたった一人で機体が地上のスタート地点から飛び立つまでの距離に基づいて測定している。

得点は、 $(150m - \text{進んだ距離}(m)) * 10$

7) 着陸の正確性

着陸の正確性は機体が着陸すべきライン 500m も手前にある 0.75m マーカーを通過した後に着陸したラインとの距離に基づいて測定している。

得点は、 $(33.3[m] - \text{距離}(m)) * 6$

8) 草地での離陸

この種目では、草地での、機体が離陸するまでの走行距離に基づいて測定している。離陸の際の援護(離陸アシスタント)は 3 人まで認められている。

得点は、 $(150 - \text{走行距離}(m)) * 10$

9) 200m タイムトライアルにおける草地での離陸

各トライアルではスタートとゴールに設置された高さ 0.75m のマーカーに基づいて測定される。スタートの位置はパイロットの自由だが、草地でないとならない。

離陸までの一貫の動きは全て草地でなければならない。得点はマーカー上の経過時間によって測定された対地速度の 3 乗に応じて計算される。

## 注釈 1 保険

全てのパイロットは£200 万の最低第三者のリスクに対する保険に加入しなければならない。保険の証明は全てパイロットによって調達されている必要があります。

飛行する人力飛行機用の第三者保険は BHPA(British Hang gliding and Paragliding Association, 8 Merus Court, Meridian Business Park, Leicester, LE19 1RJ, UK)の飛行メンバーシップを取ることにより、利用可能です。参照：<http://www.bhpa.co.uk/sport/bhpa/join.php>

航空機は BHPA に登録する必要があります。

パイロットは自分の個人的なリスクで飛行することに同意するものとし、その生活保証は彼らの裁量にあります。

## 注釈 2 リスク評価

	危険事項	規制措置
1	10 ノット以上の突風や強すぎる風	飛行中止
2	構造上の欠陥	静的荷重試験。フライト前の検査。
3	飛行中の操縦不能	負荷試験および制御システムの検査。 無料かつ公正な機体のチェック(バッテリー充電を含む) フライト前に機体の装備とバランスをチェック。 飛行高度を地上高度 15m 以下に制限。 対気速度計を積み危険な失速を防ぐ。
4	離陸失敗	ペダリングを停止。風向を評価
5	パイロットの練度	全てのパイロットは、いくつかの関連する実機、またはシミュレーターでの飛行経験を持っている必要がある。
6	グラウンドハンドリング(グラウンドクルー)の危険	離着陸時に対する機体の制御や保持をするグラウンドクルーの説明をする。 ケーブルのつまづきやプロペラの危険性を説明する。